

## 平成 27 年度 明倫短期大学・福岡医療短期大学との大学間交流 活動「学生 IR 調査」分析結果

両短期大学（歯科衛生士学科、歯科衛生学科）の実施報告書に基づき、以下 3 つの観点から比較分析を行った。

### A) 全般的な学習状況（専門教育、アクティブラーニングを含む）

#### (1) 専門教育の実践

「相互実習、学外実習（臨床・臨地実習）を通し、学生が体験的に学ぶ経験（Ⅱ-7-A）」や、「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ経験（Ⅱ-7-B）」について、「あった」と回答した学生は、両大学とも 9 割を大きく超え、明倫短期大学では前者において全員が「あった」と回答した。教育内容に関する満足度についても、「専門教育の授業（V-21-A）」や「授業と将来の仕事との関連性（V-21-E）」に明倫短期大学では各々約 6 割、約 8 割の学生が、福岡医療短期大学では 7 割以上の学生が「満足」と回答しており、専門教育の実践は行われていると考えている。しかし、「専門教育の授業（V-21-A）」では、両大学で 3~4 割の学生が「満足」していると回答していない状況には、専門教育の難しさが表れており、今後の検討課題と言える。

#### (2) ライティング、レポート課題

「学生自身が文献や資料を調べる（Ⅱ-7-E）」、「定期的な小テストやレポート課題（Ⅱ-7-F）」、「教員から提出物に添削やコメントをつけて返却される（Ⅱ-7-G）」については、両大学ともほぼ同じ割合で経験しており、専門教育の中で学生にレポートを課し、学生が調べ、提出されたレポート等を教員がコメントを付して返却するなど、学習効果を高める工夫と実践が行われていると考えている。今後、自主的に学生が学習する方法として、ライティング、レポート課題は有効な方法と考えられるので継続・強化していきたいと考えている。

#### (3) アクティブ・ラーニングを通じた学習

「自分の考えや研究を発表する（Ⅱ-7-H）」、「授業中に学生同士で討議をする（Ⅱ-7-I）」は、大学間で差が認められた。「自分の考えや研究を発表する（Ⅱ-7-H）」では福岡医療短期大学が 7 割に対し、明倫短期大学は 4 割と低く、「授業中に学生同士で討議をする（Ⅱ-7-I）」では福岡医療短期大学が 5 割、明倫短期大学は 2 割と低かった。福岡医療短期大学は、平成 26 年度から平成 30 年度まで文部科学省の「大学教育再生加速プログラム」を受けており、アクティブ・ラーニングを強化しており、その差が出たものと考えられる。今後、両大学で教育のノウハウを共有し、アクティブ・ラーニングを通じた学習について協同して教育していきたいと考える。

## B) 課外学習

「授業課題のために Web 上の情報を利用した (II-8-B)」、「授業のために図書館の資料を利用した (II-8-A)」については、明倫短期大学が若干高い回答であったが、傾向は類似していた。明倫短期大学は iPad の貸与で情報の検索を促しており、福岡医療短期大学は、学内のコミュニティーホール、情報図書館分室にパソコンを設置して情報検索を促している。方法は異なっているが、インターネットの利用を通じた情報の収集が行われている傾向は同じである。一方、図書館の利用は多くはない。資料収集の方法が図書資料からインターネットの資料に変化している傾向が認められる。

一週間あたりの「授業時間以外に授業課題や準備学習、復習をする時間」については、「全然ない」、「1 日 1 時間未満」は両大学とも少なく、レポート課題の作成、卒業論文の作成、国家試験対策学習などが課外学習の必要性に繋がっており、専門教育の特徴とも言える。

## C) 学生満足度を含めた教育の質保証

### (1) 欠席・遅刻数および授業への興味・関心

「授業をひんばんに欠席した (II-8-G)」、「授業をひんばんに遅刻した (II-8-H)」については、両大学で若干の差が出ている。明倫短期大学では欠席の多い学生に対し、学年担当や学科長が本人や保護者と面談をするなどして指導しているが、アルバイトの影響もあり、今後、その指導も重要である。福岡医療短期医学では欠席が多くなると助言教員が面談し、改善が認められなければ学年担任教員、学生、保護者の三者面談を行うため、欠席遅刻の抑制に繋がっている可能性がある。今後、厚生補導について両大学で情報の共有と検討を行っていきたいと考えている。

「授業をひんばんにつまらなく感じた (II-8-I)」、「授業中にひんばんに居眠りをした (II-8-J)」については、両大学とも低い回答であった。両大学とも専門職業人を育成する養成校であることから、学生自身が早期から将来像を明確にもっており、また、国家試験というハードルもあるため、意欲を持って授業を受けている結果だと考えている。また、「授業の全体的な質 (V-21-C)」に対しても、両大学とも不満を持つ学生は少なく、教員の教育技術や熱意が、歯科衛生士免許取得を目指した前向きな学習態度の形成に繋がっていると考えている。

### (2) 教育の質の保証

両大学とも「専門分野や学科の知識 (II-10-C)」は、入学時に比べ大きく増えたという回答しており、「学外実習に意欲的に取り組んでいるか (III-12B)」についても、「意欲的でない」学生は明倫短期大学 0 名、福岡医療短期大学は 1 名と両大学とも殆どおらず、専門教育の質が保証されていると考えられる。

「将来の見通しを持っており、何をすべきかわかっている (VI-24-1, 2)」学生は、

両大学で7～8割で、キャリア教育が行われていることを保証しているものとする。

「教員に親近感を感じた（Ⅱ-8-N）」、「大学教員と顔見知りになった（V-19-F）」については、両大学で若干の差が出た。明倫短期大学では3年間を通じた「先生と語る会」の実施、福岡医療短期大学では、3年間を通じた助言班制度など大学独自の取り組みが行われており、また、成績不振者に対する補習などの生活・学習支援体制が、学生-教員間の交流を促進し、学生の信頼感の醸成にも繋がっているものと考えられる。

今回、共同で学生 IR 調査とその集計を行い、歯科衛生士を養成する学科間（歯科衛生士学科3年次、歯科衛生学科3年次）の IR 調査に対して分析を行った。カリキュラム等共通の部分が多いため、学習成果の評価や課題など重なる点も多いが、独自の取り組みもあり、今後、可視化を通じて明確になった課題について、大学間交流を深め、協同して今後の教育・研究、学生支援の改善や教育の質保証・向上に取り組んでいきたい。